

活動名 広島県内に於ける小中学生のロボット競技体験活動 (ロボカップジュニアに挑戦しよう!)	団体名	ロボカップジュニア広島ブロック保護者会
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 山野 真一
	支援金額	47万円
活動概要		
<p>こども達の知的好奇心を刺激し、科学への関心を高めて、次世代のエンジニアの卵を育む事を目的とする。教材として自律型ロボットを使用した競技を行なう中で、「現象の把握」から「仮説・検証」といった「問題解決」のプロセスを楽しみながら学べる場を提供してゆく活動であり、以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自律型ロボットを使ったサッカー、レスキュー競技を体験する場を設ける。</li> <li>・希望者には2012年のロボカップジュニア出場に向けた活動の場も提供する。</li> </ul> <p>〈広島予選2011年12月全国大会3月〉</p> <p>◆実施時期 2011年4月1日～2012年3月20日          広島県内:広島地区 広島市こども文化科学館、広島市青少年センター、可部公民館          福山地区 福山大学、福山大学地域連携研究推進センター</p> <p>◆参加人数 ロボカップ体験会7月18日(こども文化科学館)40名          ロボット体験教室8月23日(可部公民館) 34名          ロボカップ体験会10月16日(福山大学)40名          ロボカップジュニア広島大会50名          ロボカップ練習会延べ120名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 284名</p>		



仮説・検証プロセスの体験  
ロボカップジュニア体験会にて



サッカーロボットのプログラミング  
ロボット体験教室にて



広島ブロック大会



ジャパンオープン広島ブロック代表選出  
サッカー競技

## ◆実施に伴う効果

### ・体験会

参加者から収集したアンケートの結果、「たのしかった」「もっとやりたい」という感想を多く得た。また、保護者からのアンケートでは、「考えさせるプロセスがよい」「こういった場をもっと設けて欲しい」「礼儀を重んずるところがよい」といった肯定的な見解を得た。

### ・競技会

「本気で取り組む」という点に於いて、保護者から非常に好評を得た。特に「競技中は保護者と隔離した環境に置く事で、自立性と問題解決力を育む」という点について好評であった。

(初めて参加=度胸と自立性が育まれる、2回目以降=段取り力が育まれる)

※6チームを3/末に行なわれるジャパンオープン出場者として選定した。

(ジャパンオープンホームページURL <http://amarobo-jr.net/>)

## ◆苦労した点

### ①広報活動

体験会のチラシを広島市内/福山市内の各小中校に配布する際、「配送」に苦慮した。

広島市は市役所に「ポスト」が設けてあり、市教委の協力の下、これを使わせて頂いた。

しかし、福山市内には各校に直接郵送するしか手が無く、印刷費よりも配送費の方が高くつくという結果となった。(今後、安芸郡やその他地域にも配布しようとしたとき、大きな課題である。)

### ②募集の受付

広島での体験会募集時、枠に対し4倍の応募があった。(40名の枠に160名)この際、ホームページのフォームとfax.(ブロック長自宅)での受付とし、質問事項はブロック長自宅の電話とした。

このとき、保護者からの注文(時にはクレーム)が殺到し、精神的負担が非常に大きかった。

これを教訓とし、福山の体験会からはホームページのフォームのみの受付とし、質問もメールのみとした。また当選連絡は「ハガキ」とし、当日これを持参する事で受け付ける事とした。

※ロボカップジュニア広島ブロックのホームページは以下

URL <http://rcjj-hiroshima.com/>。

## ◆今後の課題・発展の方向性

### ①こども達のモチベート

毎年、「体験会に参加し、県内予選に出るが、敗退してそこで辞めてしまう」という子が多い。勝ちあがるチームは「続ける」から強いのであるが、保護者含めて多くがそこに至らない。(ジャパンオープンの敷居も上がっているが、他国では国や公的機関がバックアップするなど、レベルアップが著しく特別な事ではない。<軍や企業がバックアップする国もある>)こういった背景から、モチベート策として「地方規模での小さな大会」のニーズが全国的に挙がってきている。

広島ブロックは全国で1,2を争う小規模な競技人口である。しかし、他県の子達との交流の場を持ち、「輪」が広がれば、モチベーションも上がるものと考ええる。(保護者含め)

よって、来期は5月に「せとうちオープン」として大会を開催する様調整を進めている。

(四国ブロック、岡山ブロック、九州ブロックに打診すると共に、会場として福山大学と調整を進めている。)

### ②備品の管理(置き場)

サッカーフィールドとロボット14台、パソコン10台、その他競技備品の置き場に苦慮している。現在はブロック長宅の倉庫に置いているが、大きな負担となっている。

## ◆活動を終えての感想・意見等

「想いはなかなか伝わらない」というのが、ここ数年運営してみても感想です。こども達は「面白い」と思っても、継続するには「保護者の価値観」がキーになります。ロボカップは「問題解決力=技術の源」を養う競技です。続けないと効果が出ないのですが、ここを伝え切れていないところが課題です。(他の地域の様に、大学教授や科学館の学芸員さんが語るのなら伝わるのですが、)

今年になって、ようやく科学館さんが「来年は回を増やしましょうか?」と日程確保に動いてくださいました。続ける事で少し「伝わってきた」ようです。

「ちいさなエンジニア」の育成に多大なるご助力を頂き、ありがとうございました。

技術のバトンを次の世代に渡すべく、頑張っけてゆきますので、今後ともよろしくお願い致します。